

第2世代ヒスタミン H1 受容体拮抗薬(皮膚疾患・アレルギー性鼻炎) 1/2										
推奨順	成分名	規格 (mg)	薬価 (円)	用法・用量(日)	車	代謝	鎮静	上段;1日量(mg) [下段];1日薬価(円)		その他
1	フェキソフェナジン	30 60	10.1 11.4	1回 60mg 1日 2回	○	腎	非	60 [20.2]	120 [22.8]	対象患者 ・高齢者を対象とする為、抗コリン作用が少ない第2世代抗ヒスタミン薬を第一選択とする。 有効性 ・治療効果には差がなく、眠気、倦怠感や自覚症状を伴わない能力低下などの副作用が少ないことから、非鎮静性の第2世代の抗ヒスタミン薬の使用が勧められる。なお、アトピー性皮膚炎においては、抗ヒスタミン薬は外用薬の補助療法としての使用が勧められる。 (アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2016) 同等量設定 下記医薬品を除き、アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2016の表5を参照した。 ・デスロラタジン; 季節性アレルギー性鼻炎を対象において、セチリジンやフェキソフェナジン(120mg)に対して有効性や安全性が明らかに劣る結果は得られていない。 ・ビラスチン; 季節性アレルギー患者を対象とした国内第Ⅱ相試験においてビラスチン 20mg とフェキソフェナジン 120mg のTNSS の変化量は臨床的に同等な効果を示した。安全性に関しても同様であった。(審査報告書p.27) ・ルパタジン; 季節性アレルギー性鼻炎患者にルパタジン 10mg、20mg、ロラタジン 10mg を投与したとき DTSSmean は3群間で統計学的な優位差はなかった(それぞれ、0.92,0.85,0.93ITT 解析)(申請資料概要p.321-) ・フェキソフェナジン・プソイドエフェドリン配合; FEX60mg と FEX/PSE60/120 は臨床的に同程度の効果を示した(鼻閉を除く総症状スコア; 変化量 FEX60mg; -2.2, FEX/PSE60/120; -2.3)(海外第Ⅲ相比較試験、審査報告書 p.14)
1	ロラタジン	10	19.2	1日 1回 10mg 食後	○		非	/	10 [19.2]	
2	デスロラタジン	5	51.7	1日 1回 5mg	○		非	/	5 [51.7]	
2	フェキソフェナジン・プソイドエフェドリン配合	配合錠	18.8	(適応)アレルギー性鼻炎のみ 1回 2錠 1日 2回 空腹時	○		非	/	FEX120mg/PSE240mg [75.2]	
2	ビラスチン	20	61.9	1日 1回 20mg 空腹時	○		非	/	20 [61.9]	
	エピナスチン	10 20	13.1 18.9	1回 20mg 1日 1回	△		非	10 [13.1]	20 [18.9]	
	エバスチン	5 10	22.1 28.1	1日 1回 5-10mg	△		非	5 [22.1]	10 [28.1]	
	ベポタスチン	5 10	11.6 10.1	1回 10mg 1日 2回	△	腎	非	5 [11.6]	10 [23.2]	20 [20.2]



鎮静作用; 非鎮静性(非)、軽度鎮静性(軽)、鎮静性(鎮) 車; 運転可(○)、注意必要(△)、運転不可(×) 2019年3月初版、2022年5月改訂第6版(2022年4月薬価)



本資料は [クリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 改変禁止 4.0 国際 ライセンス](https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/) の下に提供されています。

第2世代ヒスタミンH1受容体拮抗薬(皮膚疾患・アレルギー性鼻炎) 2/2										Toda Medicalcare Group 戸田中央メディカルケアグループ	
推奨順	成分名	規格 (mg)	薬価 (円)	用法・用量(日)	車	代謝	鎮静	上段;1日量(mg) [下段];1日薬価(円)			その他
1	オロパタジン	2.5 5	10.1 10.1	1回5mg1日2回 朝・就寝前	×	腎	非	2.5 [10.1]	5 [20.2]	10 [20.2]	<p>・エメダスチンテープ;季節性アレルギー性鼻炎患者を対象とした第Ⅲ相試験においてエメダスチンテープ4mg、8mg、レボセチリジン5mg群の平均3鼻症状合計スコアのベースラインからの変化量はそれぞれ-1.10, -1.35, -1.22だった(審査報告書 p.16-17)。よってエメダスチンテープ4mg=レボセチリジン5mgとした。</p> <p>・エメダスチンカプセル;エメダスチンカプセル2mgの単回投与に相当するテープ剤の投与量はCmaxで8.8-10.9mg、AUC∞で2.6-3.3mgと算出された(審査報告書 p.13)。2mgカプセル(単回);Cmax2.3、AUC∞20.5、テープ4mg;Cmax1.2(1日目)、AUC24h16.3(1日目)、8mg;Cmax2.3mg(1日目)、AUC24h31.7(1日目)。この結果から経口1日4mg=テープ8mgと設定した。</p> <p>優先順位付け 車運転の注意喚起の種類ごとに優先順位付けした。エピナスチン・エバスチン・ベポタジンはエビデンスに乏しく、優先順位が付けられていない。</p>
2	セチリジン	5 10	10.1 11.2	1日1回10mg 就寝前	×	腎	非	5 [10.1]	10 [11.2]		
2	アゼラスチン	0.5 1	5.7 5.9	1回1mg 1日2回	×		軽	/	1 [11.4]	2 [11.8]	
2	メキタジン	3	5.7	1回3mg 1日2回	×		軽	/	3 [5.7]	6 [11.4]	
2	ケトチフェン	1	5.9	1回1mg 1日2回 朝食後・就寝前	×		鎮	/	1 [5.9]	2 [11.8]	
2	オキサトミド	30	5.9	1回30mg 1日2回 朝・就寝前	×		鎮	/	30 [5.9]	60 [11.8]	
3	レボセチリジン	2.5 5	13.2 16.0	1日1回5mg 就寝前 最大10mg	×	腎	非	2.5 [13.2]	5 [16.0]	10 [32.0]	
3	エメダスチン	1 2	23.1 28.2	1回1-2mg 1日2回 朝食後・就寝前	×		非	/	2 [46.1]	4 [56.4]	
3	エメダスチン (テープ)	4 8	62.5 85.4	1回4mg1日1回 最大1回8mg	×		非	/	4 [62.5]	8 [85.4]	
3	ルパタジン	10	54.9	1日1回10mg 最大20mg	×		不明	/	10 [54.9]	20 [109.8]	

鎮静作用;非鎮静性(非)、軽度鎮静性(軽)、鎮静性(鎮) 車;運転可(○)、注意必要(△)、運転不可(×) 2019年3月初版、2022年5月改訂第6版(2022年4月薬価)

